

国外実態調査報告書

ゼミ名 : 木立 真直ゼミ
訪問先 : 在メルボルン日本国総領事館
訪問日時 : 2019年9月2日(月)14:00~15:30
ご対応者 : 堀籠 勝史 様
訪問人数 : 学生 17名 教員 1名 計 18名

【調査目的】

日本とオーストラリアの全体的な交友関係とオーストラリアにおける日本の位置づけを調査する。

【調査結果】

堀籠様からビクトリア州の概要、領事館での主な業務や、オーストラリアでの働き方、政治や経済、また日系企業のオーストラリア進出に関するお話を伺った。

領事館では、メルボルンに滞在している日本人のサポートを行っており、日本人へのサポートを含む証明書の発行や日本へ渡航する外国人へのビザ発行を主な業務としている。他にも、オーストラリア人に向けて日本に関係する展示やセミナーの開催、パンフレット等の配布を通じて日本文化の発信に努めている。また、オーストラリア人の働き方の特徴として、定時に帰宅しプライベートを大切にしている点が挙げられ、日本文化との違いを強く感じた。

次にビクトリア州の人口及び文化についてお話を伺った。2017年から2018年のデータによると、ビクトリア州の人口は646万人でその中でもメルボルンは496万人を有する。NSW州にあるシドニーの人口は523万人で、メルボルンはシドニーに次いで2位である。移民の増加などの理由から、州人口は年間10万人以上のペースで増加しており、メルボルンは2053年にシドニーを抜いてオーストラリア最大の都市になると言われている。また、ビクトリア州は多文化という特徴があり、人口の49.3%が外国生まれか片親が外国人である。さらに諸説あるが230の言語が話され150か国からの出身者がいると言われている。元々移民の中心は欧州系であったが、近年ではアジア系の移民が急増し欧州の移民の数を上回る結果となっている。また、メルボルンはスポーツに対しても関心が高く、全豪オープンテニスやF1グランプリなど現地での観光需要を喚起させるようなメジャーイベントが数多く開催されている。今後は人口増加が見込まれ、収益源として観光業も期待される。

最後にオーストラリアの経済と日系企業との関係性についてお話を伺った。以前トヨタはオーストラリアで事業展開をしていたが、結果としてオーストラリアから撤退することとなった。その理由としてはオーストラリアのガス代や電気代、人件費が高いことが挙げら

れる。以前は、多数の自動車生産会社がオーストラリアで事業展開を行っていたが、これらの要因から撤退することとなった。その結果、オーストラリアにある自動車部品会社は販売先がトヨタのみになってしまい、採算が合わず、撤退を余儀なくされてしまった。この一連の事態の中でトヨタは解雇する従業員のために、次の就職に至るまでの勉強費を負担することや、トヨタで培った技能を活かすことのできる再就職先の提案を行うなど、従業員に対して個別に再就職のためのサポートを行った。また、今後メルボルンの人口が増加することで、人が住む場所や、家具、食料などが必要となってくる。世界のトヨタでも BtoB の関係性なしでは自動車は生産できず、ビジネスには企業同士の強い繋がりが必要不可欠ということを改めて感じた。様々なものに対する需要が増大していく中で日系企業がこれらのビジネスチャンスをもどのように活かしていくのかという部分が重要となってくる。オーストラリアでの経済発展が見込まれるなか、人口増加の要因が移民であることから、多種多様なバックグラウンドを持つ住民が共存すようになることが予想され、民族間のコンフリクトなどの課題も残される。

末筆ではございますがお忙しい中、私共のために貴重なお時間を割いていただき厚く御礼申し上げます。プレゼンの最後には私どもの至らない質問にもご丁寧に回答していただき、誠にありがとうございました。



(文責：暮石 亮、河上 拓矢、細川 美緒、林 凜子)